



府中国際交流サロン
FUCHU INTERNATIONAL SALON

くろするろ〜ど

2024/3月号 第290号

★★★★crossroad★★★★★★★★crossroad★★★★

〜サロン月間カレンダー〜3月〜



★★★★crossroad★★★★★★★★crossroad★★★★

「新年の挨拶と節分」

かいほうし
会報誌

府中国際交流サロンは、府中に住む日本人と外国人が、仲良く助け合っ
たの楽しく生活していくことを願って、活動を
つづけています。

日本語学習会

日時：3月1日(金)～3月22日(金)
月(午前・午後)、水(午後)、金(午後・夜)
場所：会議室・学習室ほか
尚、18日(月)、20日(水)はお休みです。

水曜ボランティア有志

水曜部会(島田部会長)では、1月の初めに、学習者各国の母国語の新年の言葉と、読みをカタカナで
用紙に書いて、新年の挨拶を発表してもらいました。

*3月の土曜学習会は以下の2回です。

日時：3月2日・16日(土)午後2時～4時
場所：学習室(2日)・第1会議室(16日)



実行委員会

日時：3月13日(水)午前10時～昼12時
場所：第1会議室

文化交流部会・生け花教室

日時：3月1日(金)午前10時～昼12時
場所：工芸室
参加費：500円

フューチャー休館日

3月10日(日)・18日(月)

*以上の件について、詳しいことはサロン事務局で
聞いてください。

代表して、左から、氏名と、新年の挨拶です。

- ・黄さん(台湾)「シン ニエン クアイ ラー」
- ・プラバデヴィさん(インド)
「イニア プタンドク ナルバル トウツカル」
- ・ノハさん(エジプト)
「コルリ アーメン ワーアントム ビーハイリ」

1月の終わりには、節分を紹介(※)しながら、鬼の仮面を被った小岩井さん(鬼の頭)、鹿島さん、エザスさんがドアの外から部屋に入って暴れるところに、「鬼は外、福は内」と言って個包装の豆を鬼に投げました。そして、鬼は外に逃げるといふ熱演がありました。そして豆は、学習者に配布しました。きっと帰宅して豆を食べながら学習会を思い出し節分を味わってくれたことでしょう。



世界の文化

「日本語学習発表会の原稿を紹介」

昨年12月9日(土)に、日本語学習発表会がありました。そこで発表された内容を随時、紹介します。

「私と日本語」

プラディーシュ・プラバデヴィ (インド)



鬼の面をつけたエザスさん(アフガニスタン)

※節分

毎年2月になると「鬼は外、福は内」と豆を投げる節分イベントがあります。新しい年や季節の変わり目に悪い考えや心の迷いを追い払う目的で行われる行事のことを節分と言います。昔の暦では新しい年が変わるのが今と違って2月だったことから、または春に向かう季節の変わり目が2月だからとも言われています。実際に鬼と言う動物はいないので家庭では父親が鬼の役になって子供を追いかけまわし子供たちは逃げ回りながらも鬼に豆をぶつけて対抗します。結局鬼は退散し、最後に家族みんなで歳の数だけ豆を食べ健やかな新しい年を迎えられるようお願いして行事は終わります。(小岩井雅人)



私はプラディーシュ・プラバデヴィです。インドから来ました。日本に来て6年になります。4年前に府中に引っ越し、二人目の子どもが生まれました。子どもたちの世話を一人で



しなければならぬし、コロナで家の外にも行けなくて、憂鬱な気分が続きました。リフレッシュするため、サロンに参加しました。サロンに行けば、誰かと会って話をするチャンスもあるでしょう。

簡単な日本語を使って自分の考えていることを少しずつ話せるようになりました。色々なイベントにも参加して日本語を話すチャンスを増やそうと思いました。サロンは色々なイベントをやっています。桜まつりのパレードの練習にも参加しましたし、夏祭りでは、スピーチをしたり、みんなと踊ったりしました。10月にはキテキテマルシェにも参加し、日本語でインドの民族衣装について説明しました。生け花教室にも入り、展覧会に参加しました。日本の文化が少しわかるようになりました。

リズム体操教室が家の近くの体育館で開かれると知って、申し込みました。はじめての日、みんなは私を見てびっくりしていました。「なんで来たの、なんで来たの」と聞かれました。私もびっくりしました。集まっていたのはお年寄りばかりでした。

体操教室では、音楽を聞きながらコーチの言う通りに体を動かします。先生が「みぎっ、ひだりっ」

「フィリピンのお祭り」

エニャノ・サラジェーン(フィリピン)

と言います。右はrightだからと考^{かんが}えて右を向くと、みんなはもう左^{ひだり}を見ているので、みんなと顔^{かお}が向き合^あってしまいます。恥^はずかしくて、つい笑^{わら}ってしまいます。はじめの頃^{ころ}は、みんなの動き^{うご}を見てまねしていましたが、今はコーチの^{こえ}声を^きいて、動^{うご}けるようになりました。「コーチが早^{はや}く口^{くち}で言^いうと私^{わたし}たちもこまるのに、あなたはよくわかるわね」とか、「あなた、すごいわねえ」と言^いわれました。

日本^{にほん}に来^きたばかりのころ、駅^{えき}からの道^{みち}がわからなくなって、何回^{なんかい}も同じ道^{おなじみち}を歩^{ある}いてしまいました。インドではお寺^{てら}のまわりを3回^{かい}まわると願^{ねが}いがかなく^い言^いわれていますが、駅^{えき}のまわりを何回^{なんかい}まわっても正^{ただ}しい道^{みち}がわかりませんでした。今は日本語^{にほんご}で駅員^{えきいん}に聞^きいて、行^いけるようになりました。

まちがえることがたくさんあっても、がんばっています。踊^{おど}りも生^いけ花^{けな}も体^{たい}操^{そう}も日本語^{にほんご}も、もっと上^{じょう}手^てになりたいです。日本語^{にほんご}をもっと勉^{べん}強^{きやう}して、いつか先生^{せんせい}になれたらいいなと思います。

日本^{にほん}でいろ^{いろ}な経^{けい}験^{けん}をしました。インドに帰^{かえ}るとき、いい思^{おも}い出^でをいっばい持^もっていきたいです。インドに帰^{かえ}っても、初^{はじ}めてのこ^こにチャレ^{ちや}レンジ^{レンジ}する気^き持^もちを持^もち続^{つづ}けたいと思^{おも}います。

編集部追記

*プラバデヴィさんは、12月のJLPTの試験^{しけん}で、N4に合格^{ごうかく}されました。“先生^{せんせい}になれたらいいな”に向^むかって、前^{ぜん}進^{しん}されました。おめでとうございます。



こんにちは。初^{はじ}めまして、私^{わたし}はエニャノ・サラと申^{もう}します。日本^{にほん}に^き来てから一年^{いちねん}半^{はん}ぐらい経^たちました。よろしくお願^{ねが}いします。今日^{きょう}はフィリピンのお祭り^{まつり}について話^{はな}したいとおもいます。

日本^{にほん}には、お祭り^{まつり}がたくさんあります。たとえば、府中市^{ふちゅうし}では、Tori-no-IchiとKurayamiとKuriの祭り^{まつり}を祝^{いわ}います。日本^{にほん}と同じように、フィリピンにもお祭り^{まつり}がたくさんあります。これから、私^{わたし}の母^{はは}の出生地^{しゅつしょうち}のお祭り^{まつり}、「アティ・アティハン」祭^{さい}を紹介^{しょうかい}します。

毎年^{まいとし}一月^{いちがつ}の第三日^{だいいちにち}曜^{よう}日に、アクラン州^{あくらんしゅう}で「アティ・アティハン」の祭り^{まつり}が祝^{いわ}われます。アクラン州^{あくらんしゅう}はフィリピンの中^{ちゅう}部^ぶに位置^{いち}するパナイ島^{ぱないうま}にあります。アクランは有名^{ゆうめい}なビーチ、「ボラカイ」島^{とう}で知られています。「アティ・アティハン」ということばは

「アティのようになること」を意味^いみます。このお祭り^{まつり}は「アティ」族^{ぞく}に敬意^{けいぎ}を表^{あらわ}しています。「アティ」族^{ぞく}は、北海道^{ほっかいどう}のアイヌ民族^{みんぞく}のように、アクラン州^{あくらんしゅう}の先^{せん}住^{じゅう}民族^{みんぞく}です。さらに、このお祭り^{まつり}も、「サント・ニーニョ」を称^たえる宗^{しゅう}教^{きやう}的^{てき}な行^{ぎやう}事^じです。「サント・ニーニョ」は幼^{まい}子^ご「イエス・キリスト」の象^{しやう}徴^{てい}です。

「アティ・アティハン」の祭り^{まつり}は国内^{こくない}最^{さい}古^このお祭り^{まつり}です。フィリピンのお祭り^{まつり}の母^{はは}と呼ば^よばれています。「イロイロのディナギャン」や「セブのシヌログ」など、他^{ほか}の宗^{しゅう}教^{きやう}祭^{さい}にも影^{えい}響^{きやう}を与^{あた}えてきました。このお祭り^{まつり}では、テーマフロートとマーチングバンドがあります。ストリートダンサーがカラフルな衣^い装^{しやう}を着^きながらおどっています。ストリートダンサーの顔^{かお}と体^{からだ}にはペイントが施^{ほどこ}されています。このストリートダンスを「サッドサッド」と呼^よんでいます。

この時期^{じき}には、家^か族^{ぞく}も集^{あつ}まってお祭り^{まつり}を楽^{たの}しみま^ます。料^{りやう}理^りをたくさんじゅんびします。そして、みんなにあげています。私^{わたし}の家^か族^{ぞく}は、食^たべるときに、「カ

マヤン」という食べ方です。「カマヤン」は素手だけで食べるフィリピンの伝統的な食べ方です。バナナの葉の上に食べ物を置き、スプーンやフォークを使わずに食べます。

「アティ・アティハン」はとてもカラフルで楽しいお祭りです。創造性と共同体精神と言うフィリピンの文化を示しています。もし将来1月にフィリピンに旅行に行ったら、「アティ・アティハン」のお祭りに行ってみて楽しんでください。



「三中訪問の体験記」

クレモン・オータヴォアヌ (フランス)

当日は雪が降って、学校に着いて校門をあけてもらいました。日本の学校に入るのは初めてだったので、始めから驚くことがたくさんありました。天井が高くて、広くて綺麗で、中に入るのにスリッパを履かせてもらってびっくりしました(フランスの学校では靴を脱ぐ習慣がありません)。授業が始まる2分前に、控室の扉が開いて、すごく丁寧一人の男子生徒に教室まで案内されました。教室はちょうど良い広さで、私も中学生の時、こういう勉強の効率が上がりそうな環境で授業を受けたかったですね。

一時間目は思いの外うまくお話しすることができました。プレゼンをしながらたくさん質問を受けて、皆が興味を持っていてくれたと感じました。最後に驚いたことがありました。一人の女子生徒が、クラス代表として御礼の挨拶とともに、私のプレゼンのまとめと感想を述べてくれたのです。私はこれとても日本らしい文化だと感じ、中学生でこのように話せる姿勢は素晴らしいことだと思いました。授業の終わりに先程の男子生徒に控室まで連れて行ってもらいました。

二回目は別のクラスで同じ流れでしたが、思ったよりも一時間目で話し疲れていたせいで、あまり思

い通りに話せませんでした。生徒たちも、1日の最後の時間で疲れていたのかもしれませんが。

中学生の前で日本語でプレゼンするのは、私にはまだ少しハードルが高かったと思いますが、とても良い経験でした。



生徒の前で話すクレモンさん

「雪の中の三中訪問」

金曜午後ボランティア 藤平 洋子

2024年2月5日(月)分倍河原駅前待ち合わせ、府中市立第三中学校を訪問しました。今回、訪問したメンバーはクレモンさん(フランス)、モルシさん(エジプト)、ヌルビヤさん(東トルキスタン)、クシャールさん(マレーシア)の4人とそれぞれのボランティアの辻村俊雄さん、西宮千嘉子さん、林美和子さん、藤平とモルシさんの通訳をしてくださる鈴木さんの5人でした。雪が舞う天気で、クシャールさんとヌルビヤさんは雪景色にカメラを向けて喜んでいました。

三中では「外国の方のお話を聞く会」として、三年生の生徒が交流をする場を設けています。今回は三年生の6クラスと交流するというので、ヌルビヤさんとクシャールさんは2クラス合同の生徒との交流を担当しました。私はクシャールさんの交流に同席しました。

クシャールさんは国際交流サロンの「日本語学習発表会」のスピーチをもとにして、マレーシアの①地理、②民族、③紹介したい自然、動物、建物、④

食べ物についてスライドを使って、英語をまじえながら日本語で説明しました。生徒からの質問にはとまどう場面もありましたがていねいにこたえていました。日本で好きになった食べ物は、には「莓大福」とこたえていました。

クシャルさんの感想は「生徒達の質問はおもしろかった。受け答えが素直で、マレーシアの子どもよりも大人っぽく、自信がある感じがした。」ということでした。

私は府中市立第七小学校に勤務していたとき、国際交流サロンの方をお招きして交流していました。今回の三中の訪問で国際交流サロンと小中学校が交流する機会がふえたらよいと思う一日でした。



三年生を前に講義をするクシャルさん

「花よりだんご、そして、おひなさま」

花を見に行くと、学習者に必ず話す言葉があります。「花よりだんご」です。郷土の森の梅まつり(2月18日)に参加して梅を見ました。ランチタイムで持ち寄った食べものとお話で花が咲きます。梅まつりでは、猿回し、茶会、恐竜、お雛さまも見学しました。

(編集部 末田)



ヒョンさん(韓国)、プラバ
デヴィさん家族(インド)、
ホワン 黄さん(台湾)とひな壇
の前で

みな がくしゅうしゃしょうかい 皆さんよろしく◇学習者紹介

ホワン スーイン たいわん
黄 思穎さん (台湾)



「もっと日本語を勉強したくて・・・」

2023年4月台湾の彰化県から来日しました。高雄餐旅大学では、ホテル管理の勉強を4年間して、卒業してから1年間はホテルで働きました。その後会計事務所の秘書として働いていました。その間日本語を勉強して、2022年日本語検定試験N2に合格しました。

現在は、高田馬場にある日本語学校に通っているのと、サロンで勉強しています。日本語学校には、日本人の生徒はいないので、日本人の友達も作れず、日本語を話す機会もない状態ですが、府中国際交流サロンでは、ボランティアの先生と日本語を話すことが出来るので、とても勉強になるし、楽しいとのこと。

趣味は旅行とジャズダンスで、昨年の秋には、北海道に行ってきました。

好きな食べ物は、焼き肉ですが、現在は、府中市にある学生寮に住んでいるので、そう頻繁には食べに行くことができません。

日本の印象は、みんなが丁寧な言葉を使うので、聞き取るのが大変だったとのこと。

日本語が上達したら、台湾に帰って、彼と結婚をして、仕事をしたいと思っています。特に、日本語が役に立つ仕事をするのが将来の夢だそうです。

(取材・文構成 堤 林)

こんな教え方しています ～ 15 ～

「今までをふり返って」

金曜午後ボランティア 山下 綾子

今までをふり返って、この頃つくづく思います。
どうして日本語にご縁があったのか、思い返してみれば、かつて友人に誘われて、日本語教師養成講座を受講し、日本語学校に勤めるようになったことからです。

最初は一クラス二十名ぐらいのいろいろな国の生徒に教えるために、黒板に絵を描いたり、身ぶり手ぶりで理解してもらおうと一生懸命努力していたことを思い出します。

そしてそのうち一番大切なことは、お互いを信頼し、理解し合う力、より添う力なくしては前に進めないということに気づきました。

日本語は世界からみてもいかに難しい語彙の集まりであるか思い知らされました。それは他の国にはあまりない助詞、敬語の存在です。

「部屋にいる。部屋で話す。部屋を走る。」のように存在を表す時のに、動詞とつながる時ので、移動助詞とつながる時のを等。改めて助詞の役目の偉大さに気づかされました。

敬語に至っては話し手の立場によって又相手の立場によっても異なってくる言葉の難しさに閉口しました。例外として動詞本来の意味ではなく補助として使われている言葉「行ってみる。覚えておく。」など“みる”ではなく試みるの意味。“おく”は継続、準備の意味で、考えもしないで使ってきた日本語の奥深さに驚きました。そして書きことばと話しことばに分かれている日本語の複雑さにも改めて考えさせられております。

しかしこのような日本語を一生懸命勉強してくれて、理解した時の生徒の喜ぶ姿を私は本当にうれしく受けとって来られたことです。感謝です。又かつての生徒が日本人に母国語を教える教室を開いているというニュース等聞かされた時の嬉しさは忘れられない思い出です。

べん きょう かい ほう こく

勉強会報告

～106～

「日本語を教えていて困ったこと、うまくいったことなど体験談を話し合しましょう」

研修部会 萱生 由美子

2月7日(水)に開催された第106回目「勉強会」の参加者は9名でした。

まずは教え方について、具体的なケースの質問Qと、皆さんからの答えAを紹介します。

■ボランティアYさんのケース

*中国の50代女性・中華料理店のシェフをしていた・日本語は全くのビギナー・夫(日本人)との会話は中国語

Q: 絵を見せて挨拶から始めたが何を言っても反応なし。少し慣れてきて、自分のスマホの料理の写真を見せて中国語で説明してくれた。

A: 料理に関心があるのなら、書棚に食材、料理の本があるので使ってみてはどうか。
(実際に本を持ってきて見て、これなら楽しくやれそう・・・とのことでした)

Q: 学習者とどこまで付き合っただいいものか、距離感が分からない

A: 保証人や金銭の貸し借りはダメだが、人との距離の取り方は皆それぞれなので、自分なりの基準でOK。淡々と付き合う人もいるし、母国に遊びに行ったり、家族ぐるみで付き合う人もいる。

Q: 他の曜日の担当者との連絡が必要では?

A: ファイルでもメールでも何らかの手段で、情報共有と役割分担をした方がよい。

■ボランティアNさんのケース

*アフガニスタンの20代女性・1年間日本語学校へ通い「みんなの日本語初級II」35課まで終了・N4を目指している

Q: 『みんなの日本語初級II』を復習しようとして26課「～んです」を説明したが、自分自身がまだ消化できずうまく伝えられなかった。

A: 例文を沢山出していくと、どういう状況の時に

みんなの広場

この表現を使うかが自然に分かる。『みんなの日本語初級II』の『教え方の手引き (26課)』や『文型辞典 (～んです)』に例文が沢山載っている。

次は音声についてのケースです。

■複数のボランティアさんのケース

*中国の女性とミャンマーの男性

Q: 中国の女性で、飲みませんの「せん」の音が出せず、「飲みます/飲みません」を言い分けられない。

Q: ミャンマーの男性も同様、「さん (san)」は発音できるが「せん (sen)」は出来ない。「せんぱい (先輩)」が「さんぱい」になる。「せんえん (千円)」が「さんえん (三円)」になったら困る。

A: 発音の繰り返しをあまりやらせると本人がイヤになってしまう。発音に関しては、どこの国の人でも母国語に無い音を発するのは難しい。

■ボランティアWさんのケース

*中国の20代男性・IT関係の仕事・初級II程度

Q: 「バナナ」の発音が「バララ」になる。「奈良 (なら)」も「ララ」になってしまった。

A: 口腔器官の図を見せ、調音点 (歯茎や口蓋) と調音者 (舌) の仕組みと位置を説明し、少しは矯正出来た。教授法研修の「音声」は必修。「音声」の基礎知識を知っておく必要がある。

少人数ゆえに全員が各々の体験を話し合うことが出来ました。具体的な教材や辞典などで例文の確認も出来、大変参考になりました。



「府中市広報番組『いっしょに、府中』でサロンが紹介されます」

府中市の広報番組『いっしょに、府中』で、「府中国際交流サロン」が紹介されます。この番組は、府中で社会・文化貢献活動をしている様々な団体や人々、行事などを紹介する番組です。

2月9日(金)と14日(水)の両日にわたり、市の広報課が、日本語学習会をはじめ、サロンの活動の様子を取材しました。その模様が、下記のとおり放映されますので、ぜひご覧ください。

■番組名: 『いっしょに、府中』

■放映媒体:

・府中市公式YouTubeチャンネル

<https://www.city.fuchu.tokyo.jp/gyosei/johokokai/koho/tvkoho/issnonifuchu.html>

・JCOM (地上波 チャンネル11)

■期間:

・府中市公式YouTube: 3月1日(金)～無期限

・JCOM: 3月1日(金)～3月10日(日)

夜8時～8時15分で放送

「日本で働く外国人」

～編集後記～

今、日本で働く外国人が増えています。1月号の「編集後記」で、府中に住む外国人の数が、昨年12月時点で6千人を突破したことをお伝えしましたが、今年1月時点では、さらに6021人までに増えています。この増加を裏付けるように、日本で労働に従事している外国人数は、昨年10月時点で200万人を超え、前年度より12%増の2,048,675人を記録しています。その中でも、特定技能の外国人は、前年から59,464人増え、138,518人にも達しています。

現在、外国人労働者を受け入れる在留資格「特定技能1号（在留期間は最長5年）」の対象は12分野にわたっていますが、さらに自動車運送業（バス、タクシー、トラックの運転手を想定）、鉄道（運転士、車掌、駅係員、車両製造など）、林業（育林）、木材産業（木材加工）の4分野の追加が検討されているとの報道が、1月28日付の新聞にありました。

既存分野の「飲食料品製造」にはスーパーでの総菜調理を、「産業機械など製造」には繊維や印刷などの業務を追加することも考えられているとのことです。

このような状況を考慮すると、ごく近い将来、サロンでもこれまで以上に仕事を持つ学習者の増加が想定されます。彼らが孤立せず、快適な生活を送れるように、これまでと変わらずに支援をしていきたいと思えます。（編集部）

今月号では、節分や梅まつり、桜まつりを楽しむみなさんの様子が伝わってきました。また、「フィリピンのお祭り」を読んで、20年ほど前に友人と訪れたセブ島を思い出しました。店頭でシヌログ限定Tシャツがたくさん並び、どれを買おうかとみんなではしゃいだ日が今もカラフルによみがえります。

スーパーの「うまいもの祭り」や量販店の「家電祭り」も、もちろん心おどりますが、文化や歴史を学べる本格的なイベントに、また足を運んでみたいになりました。（岩城）



【創刊】 1997年11月

【編集】 編集長：和田泰弘
会報部会：堤林・和田・岩城・末田

【事務局】 電話：042-352-4178

E-mail：mail@fuchukokusai.gr.jp

サロンのホームページ

<http://www.fuchukokusai.gr.jp>

